



# 若者と考える男女共同参画

8月17日

8月は、「パートナーシップ宣誓制度の周知」をテーマに開催しました。昨年10月、県内初「パートナーシップ宣誓制度」を導入された彦根市役所から「パートナーシップ宣誓制度」についてお話しいただき、これからの課題とされている周知について考えました。

## 感想

当事者の方を受け入れる体制が日本はまだまだ整っていない。まずは、足場づくりから始めていかないといいけない

啓発活動の難しさを再確認できました。自分が思いつかなかった案が出て、視野が広がったように感じました

今回は高校生の参加もあり、自分たちは違う世代の意見も聞けて、とても有意義な時間だったと思います。周知活動を行っていくにあたって、「学生」という立場を活かした周知活動が行えればいいと思いました

9月14日

9月は、「学校とジェンダー」をテーマに開催しました。今年度より制服が選択制になった県内高等学校の養護教諭に話題提供をいただき、現在の状況等をお話いただきました。その後、学校におけるジェンダーについて話し合いました。

## 意見

着たくない制服を着せられるのが苦痛だが、親や先生にうまく伝えられない

子どもは親や周りの大人の影響を受けやすく、行動や言動に顕著に表れていると感じる

学校において、仕事が分担されていたり教科書にジェンダー的によくない表現があったり、学校が性別を強要しているところもあるのではないかな

学校の環境が大切だと思う

子どもにジェンダー教育するのは大事子どもにかかわる大人にも講義等必要

10月12日

ユースリーダー事業の一つとして県内の学生を中心として『ジェンダー平等ミーティング』を毎月一回開催しています。今年度の『ジェンダー平等ミーティング』は、初回到各回のテーマを参加したみなさんと話し合って決定しました。毎回、参加のみなさんで充実した話し合いがされています。

10月は、「化粧とジェンダー」をテーマに開催しました。株式会社ポラ様から「多様性の理解とジェンダー平等」POLOAの取り組みから考察」をテーマに話題提供いただきました。

## 意見

どうして女性だけが着飾らないといけないのか

女性が化粧しなくていい社会、男性も化粧をしないといけない社会のどちらかになっていくのでは？

化粧品はCMや化粧品は女性のイメージが強い ↓ CMや店舗を性別を問わないものにする

化粧をしたい男性もいることを知ることとは大切

化粧をできない女性がいることも知ってほしい(肌に合わない、化粧することが困難など)

そもそも化粧はしなければならぬ？女性が化粧をするものという考え方をなくしていく

8月17日



## Check! 今年度の各回テーマ

- 「ジェンダーと偏見」
- 「性の多様性について考える」
- 「パートナーシップ制度の周知について」
- 「学校とジェンダー」
- 「化粧とジェンダー」
- 「就職活動と自分らしさ」
- 「仕事とジェンダー」
- 「海外と日本のジェンダーについて」
- 「ジェンダーとアニメ」
- 「ジェンダーと戦争」

11月9日

11月は、「就職活動と自分らしさ」をテーマに開催しました。「就職活動で自分らしさを表現するためにはどうすればいいのか」について話し合いました。

## 意見

就職支援センターや親の意見を鵜呑みにするのはなく、自分も意見を出しお互いに歩み寄ることが大切になるのではないだろうか

現在、就活時におけるスーツや髪型の模範を提示されているため、まずはそこが多様性を受け入れたものに変わる必要があるのでないだろうか

就活生に対する企業の印象や就活の有利不利が、服装やメイク、髪型などで決まることがないようにするべき

根本的に国の方針を変えるべき ↓ 皆が選挙に行くべき

就活生の服装や髪型などについて、どの程度までOKなのか、企業側は公開指示してほしい

# ユースリーダーの活動

G-NETしが活躍する  
ユースリーダー



みなさんも一緒に

アライの輪を広げていきませんか

# アライ缶バッジ できました!



ユースリーダーのみなさんが  
デザインを決定しました。

性的少数者の人に対する差別、  
偏見は人権問題です。  
まずは、性の多様性について  
正しく理解し、性のあり方の  
違いを尊重していきましょう。

LGBTQ+など、セクシュアルマイ  
ノリティ(性的少数者)への理解が進  
んできていますが、まだまだ日本は、  
LGBTQ+の方々にとっては生活し  
にくい環境があります。  
アライとは、LGBTQ+の方たちを、  
理解し、共感し、寄り添いたい、支援  
したいと思っている人たちのことです。  
アライであることを表明する行動  
として、アライグッズを身に付けるこ  
ういう方法があります。今回、「ジェン  
ダー平等ミーティング」に参加し、活  
動しているユースリーダーのみなさん  
と一緒に「アライ缶バッジ」を作成し  
ました。

## 今日からできること

### 《アライの具体的行動例》

- 自分の周りに性的少数者の人がいるかもしれ  
ないと思って行動する。  
・レインボーグッズを身に付ける  
・多様性について学ぶ
- 性的少数者であることを理由にいじめたり、  
笑いのネタにしない。  
・「ホモ」「オカマ」「レズ」など、差別用語は使わない  
・当事者をからかうような言動を見かけたら、  
「よくないこと」と指摘する
- 性別を特定しない言葉を使うようにする。  
・「彼女(彼女)はいるの?」「どんなタイプの女  
性(男性)が好き?」など、相手の性的指向  
を決めつけるような質問はしない。  
・「彼氏」「彼女」↓「恋人」「パートナー」と表  
現する

など

アライ缶バッジを希望される方は、G-NETし  
が事務室窓口でお声がけください。セクシュアル  
マイノリティを理解し、アライとして行動いた  
ける方にお渡します。

12月14日

12月は、「仕事とジェンダー」  
をテーマに開催しました。  
社会人の方にもご参加いた  
だくため、19時からオンライン  
で行いました。ご参加の社会  
人の方々からは、学生の頃と  
の違いや現状のお話を伺い、  
意見交換を行いました。



### 感想

学生の身では思いつかないような視点  
から、実際に働いておられる社会人の方  
の貴重なお話を聞くことができて、大変  
勉強になりました

実際に働いていないと聞けない貴重な  
体験談を聞いて、今後の自分自身の人  
生においてかなり重要なものになるので  
はないかと思うようになりました

みんなが生きやすい社会、職場となる  
ように、今回得たそれぞれの気づきを明  
日のより良い生き方につなげていき、少  
ずつ環境が改善されればと思います

色々議論した中で、男性・女性で区別  
せず、またそういった性差を捉える考え  
方自体をなくして、フラットな立ち位置  
で素直に話し合える関係性の構築を目  
指すべきという意見が印象的で、とても  
いい学びになりました

ジェンダー平等には程遠い現状を「終わ  
りなき日常」として許容するのではなく、  
声に出せなくても疑問を持つことは大切  
なんだ、と改めて感じる事ができました

11月27日 G-NETしがフェスタ

今年度の「ジェンダー平等ミーティング」に  
は、大学生をはじめ、留学生や社会人、高校  
生などの参加があり、より幅広い意見交換  
会になっています。

11月の「G-NETしがフェスタ」では、これ  
までの取り組みを発表しました。この「ジェ  
ンダー平等ミーティング」が、同世代がジェ  
ンダー平等についてどのように考えているかを  
知り、自分自身の考え方を広げるだけでな  
く、ジェンダーについて考える者同士の新し  
いつながりを作るきっかけの場となっている  
こと、また、ジェンダーを語り合うことを通  
して、誰もが暮らしやすい社会づくりを目  
指して活動していることを伝えました。



## 参加者の声



山村 悠理恵さん

ジェンダー平等ミーティングでは、各回テーマを用意し、様々なゲストの方にお越しいただいて議論をしています。テーマは、「性の多様性」や「化粧」「学校」「就職活動」「仕事」などです。自分自身の生活のすべては、ジェンダーという観点で捉えることができず、会議では意見交流を通して、同年代の方がどう考えているのかであったり、体験談を知ることができたりと、有意義な時間を過ごすことができました。また、今まで抱えていた思わぬ偏見やささいな誤りにも気づくことができます。

若者のみなさんも、是非気軽に会議に参加してみてください。

## 参加者の声



中野 綾香さん

私は、ジェンダー平等ミーティングに参加する前は、ジェンダー問題などについて、特に意識をしたことはありませんでしたが、ジェンダー平等ミーティングに参加して、ジェンダー問題は個人の問題ではなく社会の問題であるということを意識しなければいけないと感じました。特に同性パートナーシップ制度は、滋賀県にはまだ彦根市のみの導入であるため、他の市にも同性パートナーシップ制度が広がっていけば良いなと思いました。

また、ジェンダー平等ミーティングを通して、他の人の意見やさまざまな話を聞かせてもらえるので、新しい気づきを得られたり、自分の考えを再確認できたりするので参加してよかったですと感じました。



佐々木 藍さん

私はこの一年、毎月ジェンダー平等ミーティングに参加しました。元々ジェンダー問題に関心はあり、多少の知識も持っているつもりでしたが、このミーティングに参加し、高校生から社会人まで様々な方の意見を聞いたことで視野が広がり、非常に勉強になりました。今後もミーティングで有意義な意見交換をしていけたらと考えています。

滋賀県はとても住みやすい地域ですが、今現在パートナーシップ宣誓制度があるのが彦根市だけなど、ジェンダーの視点から見れば未だ発展途上にあると思います。一人でも多くの県民の皆様の理解を得て、ジェンダー平等社会の実現に近づいていくことを望んでいます。

## ジェンダー平等ミーティングについて

ジェンダー平等ミーティングアドバイザー  
聖泉大学 人間学部 富川 拓 准教授

令和4年度のジェンダー平等ミーティング(GINET)が主催は、聖泉大学、滋賀県立大学、滋賀医科大学、立命館大学などの学生に加えて、立命館守山高等学校の皆さんにもご参加いただき、賑やかな雰囲気の中で、充実した活動を展開することができました。

ミーティングでは、若者の主体性を尊重し、各回のテーマ選定をはじめ、司会、記録、発表など、すべての活動、役割を参加学生自身が担当しました。今年度は毎回ゲストをお招きし、ジェンダー平等に纏わる話題を提供いただきましたが、テーマによっては、学生自身がこの話題提供にも挑戦してくれました。回を重ねるごとに、学生それぞれが成長したように思います。



橋爪 佑果さん

私は、ミーティングに参加することで生活の中で当たり前になってしまっている偏見や不平等について知ることができました。また、ミーティングに参加して、他の参加者と話すことで自分の考えと同じ部分、違う部分を知って、話し合い、交流できることがとても楽しいです。

現在、パートナーシップ制度が導入されているのは滋賀県内で彦根市だけです。私は、彦根市以外の市町でもこの制度を導入することでLGBTQ+の方もパートナーとしての想いを尊重し応援したいと考えています。そのためにも、彦根市だけでなく、県全体での導入が必要ではと考えています。



ジェンダー平等ミーティングの参加者を中心に、市民団体「くれよん」を設立したことも、今年度の大きな成果でした。「くれよん」では学生が代表となり、小学校の出前授業など、自分たちで考えた活動に取り組んでいます。

ジェンダー平等ミーティングをきっかけに、ジェンダー平等に関心を持つ若者の活動が広がっています。県内外の大学生、高校生のご参加をお待ちしています。

## ユースリーダーの活動